

# 異文化と 心通わせ

96

村田 佳子



先日、酒田で撮影され大ヒット中の映画「おく何気なく通っていたはずりびと」を観ました。ストーリーもあることながら、納紗師を演じる俳優の所作の美しさに感激しました。そして山々や川の見事な景色を大きくなっています。クリーンで見て、澄んだ空気が伝わってくるようでもわざ深呼吸したくなり、あらためて庄内の空氣が伝わってくるようでした。思えば、白鳥を間近で見られることがあって、今思えばとても貴重な体験でした。映画で使われていた庄内弁も、特に語尾に「の~」を付けて話すところは、故郷を離れてもう一度見たいと思ふほどでした。

ですし、優しいイントネーションです。

入ることになった主人公 らすると、女性が胸を隠  
の奮闘が描かれているコ さずに歌つたり踊つたり

は…

この映画の途中で、主演の本木雅弘さんがコカルな格好で

日本の作品が「おすすめ」とのほうが自分なら絶対として楽しもまれているのにイヤだなと思つてしまは、日本人としてうれしいますが。

「え」が実登場する場面がありました。それをみて私はオーストラリアの

かつたです。相撲が題材になつてゐることも海外で関心を引いたのでしょ。自分にとつての「あらりまえ」では、他の人にどうぞうではないことが多々あります。これは海

まる 店でみた「Sum  
o do Sumo don

英語では「ナード」といふことを  
「スマウレスター」と訳したことではありません。

たり  
·  
スモウドン

て聞いたときしつくりき  
ませんでしたが、英語で  
入れる、トウモロコシを  
ゴロつと入れる。この珍

「あ  
ド」という作品  
を思い出しまし

当てはまるのはその言葉  
しかないようなので仕方  
ないと思つて食べる鶴岡の  
しい食べ物をあたりまえ

た。お店の一角  
におすすめの海

ありません。日本人は控食卓がテレビで取り上げ  
えめでシャイな印象なのられていました。大阪出

外作品コナード

に、まわし一つという大身の夫にこれらのみそ汁胆な格好でレスリングをを初めて出したとき「ううう。」  
「ううう。」  
「ううう。」

ノハフジル

する。なぜ服を着ないのであるか。これは外国人にどうやって食へるの？」。そう聞かれ、自分も女戻ざる意付

日本映画でした。聞いた

で不思議がことのようですが、自分たる数派だと更に迷いました。さきやかな習慣です。

ことのない題名でしたが、これは海外向けに付けたもので、よく見てみると

知人のアフリカ人が初めに相撲中継を見たとき、(鶴岡市出身、コーチングシステム)